相模原市立　環境情報センター
NEWS 冬号
発行：平成30年1月1日
相模原市立環境情報センター
指定管理者 株式会社ウイッツコミュニティ

外来種が地域（ちいき）の自然をこわす？！

「外来種」とはもともとその地域にいなかったのに、人間の活動によってほかの地域から持ちこまれた動植物のこと。

外来種（がいらいしゅ）ってなに？

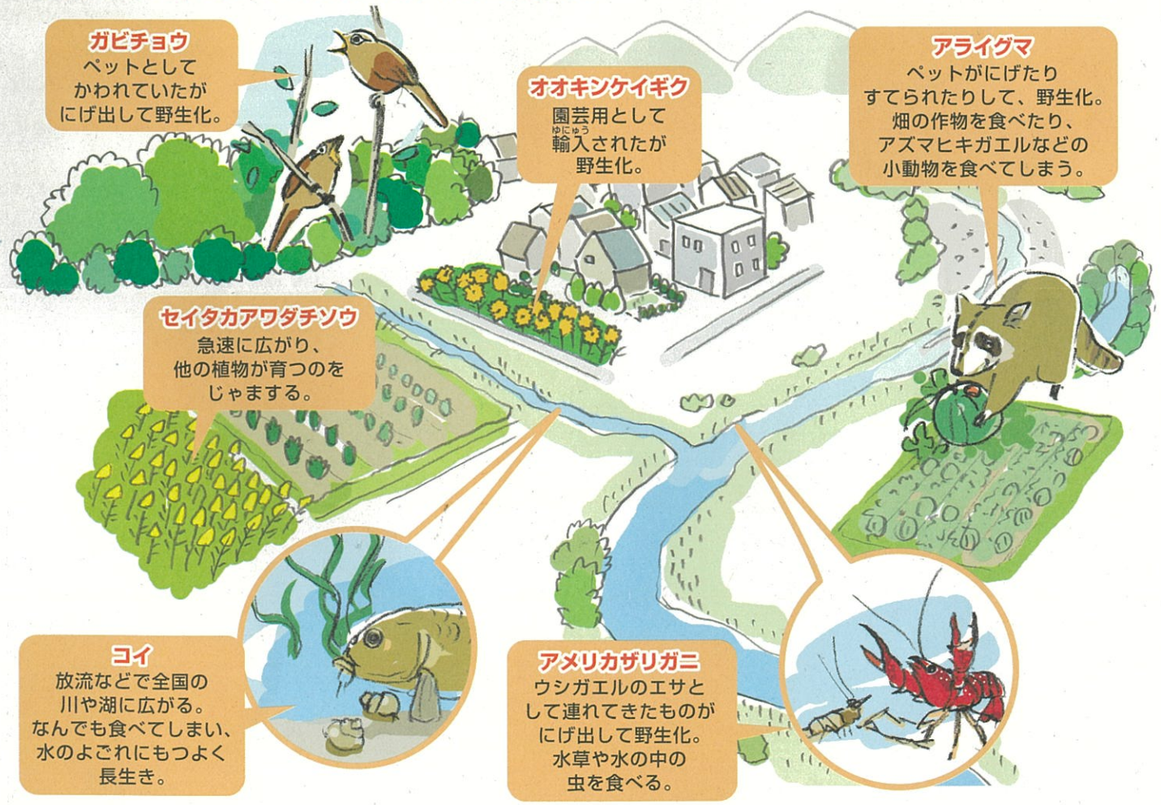
在来種（ざいらいしゅ）ってなに？

「在来種」とはもともとその地域にすんでいる動植物のこと。

たとえば、アライグマやアメリカザリガニなど、もともとその場所にいなかったけれど、人間の活動が理由で入ってきてしまった、あるいは目的があって連れてきた動植物のことを外来種と言います。

外来種と言うと、外国から日本に持ちこまれた動植物というイメージがあります。しかし、たとえばゲンジボタルのように日本国内の移動（いどう）でも、他の地域から、もともといなかった場所へ人の手で持ちこんだ場合も外来種になります。

相模原にもたくさんの外来種が！



この他にも外来種によって様々な問題が起きています

相模原市立 環境情報センターの取組を紹介！

夏休みの環境教育 環境学習の支援活動

環境に関する出前講座や学習会のコーディネートも行っています。市内小学校で総合学習の時間を活用して、お子さんと保護者、地域の方へ向けて「エコロジカルネットワーク」や「生物多様性」について、実際に地域の河川を題材に地元のお子さんに向けて、環境問題に関する学習会の講師対応の他、教職員の方向けにも、環境教育を実施しております。環境に関する学習の際には、お気軽に環境情報センターをご活用、相談ください。

夏休み環境学校

毎年「夏休み環境学校」を７・８月に開催しています。地域の方、事業者、行政や学校にご協力いただきながら、現場見学や実験を通じて環境について、楽しく分かりやすく学んでいただける場を提供しています。

さがみはら環境まつり

年に１回、地域で環境保全活動に取り組む市民、事業者、大学、行政が集って環境活動の発表を行っています。市民の方に環境について知っていただく機会として、講演会や体験プログラムなど、様々な催しを行っています。

環境のちょこっと話　No.28

コイも外来種?!

日本各地で見られる「コイ」ですが実は、ほとんどが外来種だと知っていますか？日本に古くからいる在来種のコイ「ノゴイ」は、かつての日本中に広く分布していました。しかし、今では、その数が減り琵琶湖などで確認されるのみとなりました。

そもそも、ノゴイとコイが違う種類だと分かったのは、２００４年に琵琶湖で流行したコイヘルペスのウィルスで大量のコイが死んだ時です。また、それ以前にも、ドイツ人医師シーボルトなどが、ノゴイは一般のコイと違う種と考えていましたが、ほとんどの学者は野ゴイは少し痩せたタイプのコイだろうと考えていました。ところが、コイヘルペスで死んだコイの遺伝子情報を調べたところ、ほとんどがノゴイで、一般のコイ（外来種）とは、別種であることが分かりました。この外来種のコイは雑食性で、在来種の貝や魚、水生昆虫や植物などを食べつくしてしまいます。さらに、交雑を繰り返して日本に定着してしまうため、環境への影響が非常に強く問題になっています。

相模原市立　環境情報センター

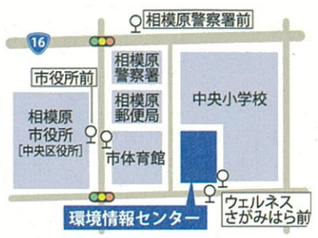
〒252-0236
相模原市中央区富士見１丁目３番41号
TEL：042-769-9248
FAX：042-751-2036
Eメール：kankyo@eic-sagamihara.jp
http://eic-sagamihara.jp/
【開所時間】午前９時～午後５時
【休所日】毎週木曜日、年末年始、施設点検日
facebook

交　通

■ＪＲ相模原から
①徒歩約20分
②バス「市役所前」下車徒歩５分
「ウェルネスさがみはら前」下車すぐ

■ＪＲ上溝駅から
①バス「市役所前」下車徒歩５分

■車でお越しの方
環境情報センター及び周辺の市役所駐車場をご利用ください。
（2時間までの駐車は無料）



なるべく公共の交通機関をご利用ください。

外来種は何が問題なの？

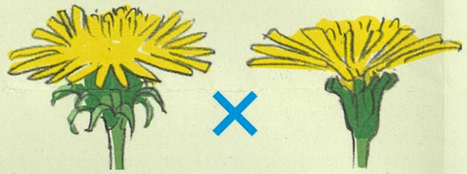
在来種が外来種に食べられてしまう

在来種はいきなりやってきた天敵となる外来種に、すぐに対応できず、にげたり身を守ることができません。

オオクチバスは在来種の魚などなんでも食べてしまいます。

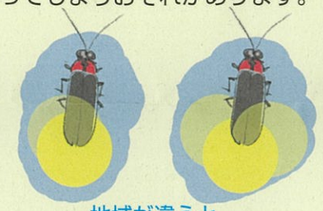
在来種と外来種の雑種ができてしまう

ちがう種類の動植物が交配することによって雑種がうまれます。雑種がふえると、オリジナル＝純粋な動植物が少なくなるおそれがあります。



セイヨウタンポポ（外来種）　×　カントウタンポポ（在来種）

同じ種類の動植物であっても地域によって違いがあります。たとえば光かたでコミュニケーションを行うゲンジボタルは、東日本と西日本で光り方がちがいます。
雑種が生まれることで、もともとすんでいたゲンジボタルがいなくなってしまうおそれがあります。



地域が違うとゲンジボタルの光り方が違う

在来種が外来種にすみかや食べものをうばわれる

食べ物やすみかを取り合って、在来種と外来種とで競争になります。その結果、食べ物やすみかをうばわれてしまった在来種は、数が少なくなってしまいます。

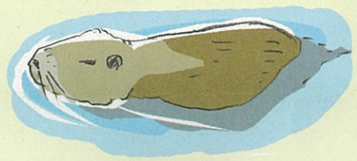
外来種のガビチョウやソウシチョウは、在来種のウグイスやメジロなどと同じような環境を利用します。

人間にも危険が！

日本にいなかった寄生虫やウイルスが外来生物に着いて運ばれ、人や在来生物に影響がでます。かみつく等、ちょくせつ人間に害をくわえたりすることもあります。

かまれると重症になるおそれのあるヒアリは輸入した荷物にまじって日本にやってきました。

土手や崖を巣として利用するヌートリアは毛皮を利用するために日本へ連れてこられました。巣は大きなよこあなを作るので崖崩れや洪水の危険となります。



ヌートリア

国の対策

「外来生物法」では、大きな被害が出るおそれのある外来生物を「特定外来生物」として、次のことをきめています。

- ほかの人からもらったり、人にあげたりすることはダメ！
- 飼ってはダメ！
- 輸入することも禁止
- 放すこと、いどうさせることはダメ！

さがみはらエコなかま

NPO 法人 相模原こもれび

「地域で守る町中の森」

南区の大野台・大沼・麻溝台地域の町中に「木もれびの森」の名で親しまれている森には、絶滅危惧種をふくむ様々な動植物がすんでいます。しかし最近、すてられる土にまじって外来植物がふえて森にもともといた植物の居場所をうばってしまう問題が起きています。

『NPO 法人相模原こもれび』では、この貴重な森をいつまでものこしていくために、下草かり、間ばつ、たおれた木や落ち葉の整理、外来植物をとりのぞくなど、森と動植物たちを守るための活動に年間を通じて取り組んでいます。

また、森の大切さを多くの人に知ってもらうため、小学生に森での取り組みを体験してもらうイベントなども行っています。実さいに「木もれびの森」の中へ入って、森のすばらしさを肌で感じてみてください！

http://www.npo-komorebi.com/